

義歯のアナログからデジタルへの転換に向けた7年間の軌跡と課題

株式会社フジ・デンタルラボ 藤井 悠介

本稿では、義歯製作のデジタル化を目指して取り組んできた当社の7年間の歩みを振り返る。歯冠修復分野においては、デジタル技術の導入が着実に進み、特に技工士の働き方や労働環境の改善に寄与してきたと実感している。一方、義歯分野におけるデジタル化は未だ進展が乏しく、多くの技工所においてもアナログ工程が中心であり続けている。この現状が、義歯技工の魅力低下や若手離れの一因となっているのではないかと危惧している。

義歯のデジタル化は、単に機器やソフトウェアの導入にとどまらず、設計・工程管理・スタッフ教育など多方面にわたる複雑な課題が存在する。また、特に多人数体制の技工所においては、意思決定や運用体制の整備に時間を要し、全体の動きが鈍化する傾向がある。当社における取り組みの中で直面した困難や工夫、そして現時点での到達点を共有することで、今後の義歯分野におけるデジタル技術の可能性について考える一助となれば幸いである。

藤井 悠介 経歴

1980 年 福井県越前市に生を受ける

2005 年 東洋大学経営学科卒

2007 年 他業種を経て株式会社フジ・デンタルラボ 入社

2018 年 代表取締役 就任

講師紹介

藤井 悠介 氏（株式会社フジ・デンタルラボ 代表取締役）

他業種から家業である歯科技工所に入社。入社直後から深夜3時までの長時間労働に従事し、「歯科技工士とはこういうものだ」と言われるままに過酷な労働を受け入れてきた。

しかし2017年、労働基準監督署からの指導を受け、約3,000万円におよぶ未払い残業代の支払いを命じられたことを契機に、歯科技工業界の常識に疑問を持ち始める。翌年、代表取締役に就任。以降、旧来の慣習を見直し、働き方改革・労働環境の改善に取り組むとともに、業界全体の持続可能性を見据えた経営改革を推進してきた。

「技工士が自らの手で業界を変える」ことを信念に、義歯分野のデジタル化にも積極的に取り組みながら、次世代に誇れる職場づくりを目指している。